

3. 達成目標（2ページ以内）

達成目標								
①収容定員充足率	計画中間年度時点（令和9年5月1日時点）				計画完了年度時点（令和11年5月1日時点）			
		定員	学生数	充足率		定員	学生数	充足率
	単純推移見込	470人	400人	85.1%	単純推移見込	470人	400人	85.1%
達成目標	470人	445人	94.7%	達成目標	470人	470人	100.0%	
推移見込推計の考え方及び達成目標の考え方								
<p>本事業を全学事業として実施することで、計画完了年度（令和11年5月1日時点）に定員充足率100%を目標としている。</p> <p>本事業を実施しない場合は、現在の学生募集に関する事業を継続し、退学者数及び除籍者数を過去5年間のデータで平均値を取って、毎年15人減（3%）と推計すれば令和11年5月1日時点で85.1%充足することが限界でないかと考えている。</p> <p>本事業は収容定員数の内、70名以上の新たな地域の様々な層の学生を獲得することで、計画完了年度における定員充足率100%を目指すものである。</p>								
②経常収支差額	計画中間年度時点（令和8年度決算）			計画完了年度時点（令和10年度決算）				
	単純推移見込	△ 7,449	千円	単純推移見込	△ 29,103	千円		
	達成目標	22,449	千円	達成目標	34,103	千円		
推移見込推計の考え方及び達成目標の考え方								
<p>推移見込み推計の考え方は、令和8年度、令和10年度の収容定員470人に対して、現在の学生募集に関する事業、活動を最大限に努力することを鑑み、退学者数及び除籍者数を過去5年間のデータで平均値を取り、毎年15人減（3%）と推計して充足率85.1%で試算している。</p> <p>目標達成の考え方は、今回の経営改革に関する計画を実施することで、本学各学科の定員充足率を95%以上達成することを前提とし、収容定員の充足率を計画実施によって見込まれる充足率として試算を行った。</p>								
③-1 独自指標 （定量指標 i）	計画中間年度時点（令和9年5月1日時点）			計画完了年度時点（令和11年5月1日時点）				
	達成目標	94.7	%	達成目標	100	%		
収容定員充足率								
達成目標の考え方								
<p>達成目標の考え方は、今回の経営改革に関する計画を年次計画どおりに実施することで、本学各学科の定員数の充足率を計画完了時点において最低95%以上達成すること（定員を確保できない学科は95%以上を目標に、定員確保できる学科は100%以上を目標にしての充足率100%を考慮した数値）を前提とし、収容定員470人のうち本計画実施による新しい地域、新しい層の学生を70人以上確保することを達成目標にする考え方である。</p>								

③-2 独自指標 (定量指標 ii)	計画中間年度時点 (中間年度に応じた時点を記載)		計画完了年度時点 (完了年度に応じた時点を記載)	
	達成目標	単位を記載	達成目標	単位を記載
設定指標を記載				
達成目標の考え方				
④-1 独自指標 (定性指標 i)	計画中間年度時点 (令和9年5月1日時点)			
	達成目標	本事業対象学生に対する自由記述式満足アンケートにおいて、満足度の高い記述が得られることを達成目標とする。		
在学時、卒業時の「青い国・四国瀬戸内まるごと留学」の自由記述満足意見	計画完了年度時点 (令和11年5月1日時点)			
	達成目標	本事業対象学生に対する自由記述式満足アンケートから満足度の高い記述が十分に得られることを達成目標とする。		
達成目標の考え方				
<p>計画中間年度時点の令和9年5月1日時点の達成目標は、令和9年3月に本事業対象の在学生16人、卒業生13人に対して本事業に対する自由記述式満足アンケート調査」を実施し、満足度の高い意見が数多く記述されることを達成目標とする考え方である。</p> <p>計画完了年度時点の令和11年5月1日時点の達成目標は、令和11年3月に本事業対象の在学生36人、卒業生34人に対して本事業に対する自由記述式満足アンケート調査」を実施し、令和9年5月1日時点と比較して満足度の高い意見がより数多く記述されることを達成目標とする考え方である。</p>				
④-2 独自指標 (定性指標 ii)	計画中間年度時点 (中間年度に応じた時点を記載)			
	達成目標	達成目標を記載		
設定指標を記載	計画完了年度時点 (完了年度に応じた時点を記載)			
	達成目標	達成目標を記載		
達成目標の考え方				